

1 【舞監挨拶】

シライ 入り

シライ 皆様、こんにちは。私は株式会社アイデア代表のシライと申します。本日はアイデア社にお越しくござり、誠にありがとうございます。まずは皆様にいくつか注意事項がございます。

一点目、社内での飲食喫煙は厳禁となっております。二点目、許可の無い写真動画撮影は固くお断りしております。三点目、音や光の出る機械は音や光の出ない状態にしてください。四点目、ご気分が悪くなられた際にはお近くのアイデア社スタッフまでお声かけ下さい。それでは、どうぞごゆっくりお楽しみください。

照明変化

2 【世界観説明】

アンサンブル Ⅰ 3 7 民衆 2 4 5 8 入り 日常生活のマイム

シライ アイデア社をご存じでない方のために、まずは人類そしてヒューマノイドの歴史について説明いたします。

人類は自らの手で農耕、牧畜、漁業などを営み生活していました。

その生活が大きく変化したのは、ロボットの誕生、開発は進み、そして現在、新たにヒューマノイドが存在します。先の戦争である第三次世界大戦の後、人類は戦争や環境悪化によって減少。人類の平均寿命は21世紀の半分以下にまで低下致しました。人類の減少には大変心を痛めておられるかと思えます。ですが、ヒューマノイドたちは人類の支えとなりました。今や日常生活に欠かせないほど、ヒューマノイドは日々進化し続けています。それらヒューマノイドたちは人類の皆様の今後の発展に尽力いたしますでしょう。

アンサンブル ハケ

照明変化

シライ 皆様、ヒューマノイドの歴史は如何でしたでしょうか？

我々アイデア社は、創立当初からのお客様を大切に思う心を引き継ぎ、高品質、高性能なヒューマノイドをこれからも製造してまいります。

皆様の素晴らしい明日とよりよい一日のために、アイデア社はいつも皆様とともに。それではまたの機会にお会いしましょう。

シライ ハケ

暗転

ハル 板付き

照明変化(サス)

ハル
：

博士 (録音) ねえ、聞こえるかい？ 僕は君を作ったモチヅキだ。僕は君に頼みたいことがあって君を製造した。君はヒューマノイドだ。君の名前はハル。起動したのなら合図をしてほしい。

SE (ハル 顔を上げる)

ハル 起動致しました。

照明変化

モチヅキ 入り

博士 おはよう。

ハル おはようございます。

博士 うん、認識機能も大丈夫みたいだ。

ハル (モチヅキを凝視する)

博士 ああ、僕が君の製作者、モチヅキだよ。

ハル (SE) 記録しました。あなたがモチヅキ様ですね。

博士 うーん、そう呼ばれるのは慣れてないから恥ずかしいな。違う呼び方がいいんだけど…

ハル では、ご主人様。

博士 博士でお願いします。

ハル 博士、ですか。

博士 うん、みんな僕のことを博士って呼ぶからそっちのほうがいいな。

ハル はい。では、モチヅキ博士。モチヅキ博士のご依頼とは何でしょうか。

博士 早速仕事の話とは、君は真面目だね。：確かに僕はあることのために君を製作した。けど、まだ君には話せない。博士 ああ、もちろん、言うべき時が来たら君に伝えるよ。

ハル 了解致しました。

博士 じゃあ、それまでに君には「人間」について学んでもらおうかな。

ハル ……私の中にインプットされている情報では、「人間」、つまりは「人類」とは、哺乳綱霊長目ヒト科

ほにゅうこうれいちよしゅく

博士 ストップ！ 違うんだ。

ハル 訂正箇所がございましたら、記録しなおります。

博士 そうじゃない。君には、「人間」を学んで理解してほしい。
なぜ笑うのか、なぜ怒るのか、なぜ泣くのか。いろんなことを君自身が理解してほしいんだ。

ハル わかりました。モチヅキ博士のご意向にそえるよう尽力いたします。

博士 うん、ありがとう。早速、僕の手伝いを一緒にしてもらいたいんだけど

4 【研究所 ヒナタとアスカ】

ヒナタ アスカ 入り

ヒナタ 博士こんにちわー！

アスカ ヒナタ、勝手に進むなよ。

ヒナタ ねえ、アスカ、知らない子がいる。

アスカ 本当だ。

博士 やあ、二人ともこんにちは。って、一応入口のところには使用中の札下げといたんだけど。

ヒナタ ねえねえ！ その子、何て名前なの？ どうしてここにいるの？ 博士とは知り合いなの？

アスカ ヒナタ。いったん落ち着けよ。

ハル 私はハルと申します。モチヅキ博士に製作されたヒューマノイドです。

ヒナタ わあ、すごい！

アスカ へえ、博士って本当にヒューマノイド作るんだな。

博士 二人とも、ハルとおしゃべりするのはいいけど、診察も受けてくれないと困るな。

アスカ ごめん。

ヒナタ えー。

博士 じゃあ、ヒナタ君からこっちに来て。

ヒナタ はい。

博士はヒナタの診察を始める

アスカ ああ、何してるのか気になる？ 私たち貧乏だから無料で博士に診察してもらってるんだ。その代わりに私たちは博士の研究の手伝いやここの掃除もやったりしてるんだよ。

ハル 知らない情報でした。(SE) 記録しました。

アスカ そういや、まだ自己紹介してなかったな。私はアスカ。

ヒナタ 僕はヒナタだよ！

博士 ヒナタ君、ちゃんと後ろ向いて。

ヒナタ あとでちゃんと受けるから、今は僕もハルと話がしたい！

アスカ 無茶言うな。

ヒナタ ねえ、お願い！

博士 君は無理をするとすぐ体調を崩すからね：後でちゃんと受けるんだよ。

ヒナタ ありがとう！ 博士！

アスカ はあ。博士はヒナタに甘すぎる。

博士 今日だけだよ。ちゃんと後で受けてもらうさ。

ヒナタ ねえ、博士。ハルあんまりおしゃべりしないよ。こわれちゃったかなあ？

博士 ああ。その子には基本的なことしかインプットしていないんだ。そこで二人に頼みたいことがあるんだけど。この子の学習の手伝いをしてくれないか？

ヒナタ えー！ いいの？

アスカ 学習って、私たちが教えられることなんてないと思うけど。

博士 いや、君たちと一緒に生活させてほしいんだ。

アスカ そんなことでいいのか？

博士 それがいいんだ。この子には君たちと生活をさせて色んなことを学んでほしい。どんなことでもいい。

アスカ うーん、いまいちよく分からないけど、私たちが良いなら…

ヒナタ うん！ わかったよ！ ハル、これからよろしくね。

ハル はい、よろしくお願いします。

ヒナタ 僕たち、普段通りで良いんだよね。

博士 そうだよ。

ヒナタ じゃあ、これから鬼ごっこしようよ。

アスカ はあ？ お前がしたいだけだろ。

ヒナタ いいじゃん。遊ぼうよ！

博士 鬼ごっこか。うん、良いかもしれないね。してきなよ。

アスカ 博士が言うなら。じゃ、私が最初の鬼やる。ヒナタ、ハル、行くよ。いーち、にー…

ヒナタ さあ、ハル、逃げるよ。

博士 帰ったらちゃんと診察受けるんだよ。

ヒナタ はーい。

ヒナタ ハル ハケ

アスカ じゅーう。よし、私も行ってくる。

博士 うん、気を付けてね。

アスカ ハケ

博士 僕は片付けでもしようかな。

博士 ハケ

クロス

5 【新商品開発会議】@アイデア社会議室

シライ シグレ アヤメ 入り

シライ それでは、新商品開発会議をはじめます。シグレ君、アヤメ君、プレゼンをよろしく。

シグレ はい！代表。それではまず私、シグレからプレゼンさせていただきます。キヌガサ君カモン！

キヌガサ Z3を連れてくる

シグレ 私が紹介するのはこちら！ それでは実際に見てもらいましょう！ 起動！

6

Z3 いずれさまのご尊顔を拝しまして恐悦至極に存じます。シグレ様より御披露いただきました通りこのたびアイデア社の、また先輩方関係各位の皆様方のご理解とお力添えを賜りまして、ヒューマノイドとしてここに販売していただく運びと相成りましてござりまする。

シライ もうわかった。

シグレ はい！ 先ほど見て頂きましたように、この新作はよく口が回ります！ 滑舌サイコーです！ ということで、セールスなどにはもってこいです！ すばらしいセールスマンになることまちがいないでしょう！ これを企業用に大量販売いたしましょう！ 以上です！

シライ はい。どうも。相変わらず説明に中身ないね。

シグレ はい！ ありがとうございます！

アヤメ 褒められてないぞ。

Z3 ご指導ご鞭撻を賜りますよう、末永く宜しくお願いを申し上げ奉りまする。

ガサ はい、もういいわよ、ありがとうね。

キヌガサ Z3を連れていく

シライ それじゃあ、次、アヤメくん。

アヤメ は、はい。わ、わたしがご紹介するのは、あゝ、キヌガサさん、お願いします。

ガサ はい。

キヌガサ Z1を連れてくる

アヤメ ご、ご紹介いたしますのはこちら。会話変換ヒューマノイドです。

シライ 会話変換とは？

アヤメ 会話が苦手、或いは言葉を選ばないひと向けの商品です。では、実際に起動させてみます。シグレさん、ご協力お願いします。

シグレ おお！

アヤメ では。シグレさん、おはようございます。

Z1 シグレ様、本日もご機嫌麗しゅうございます。

シグレ どうもどうも！

アヤメ 最近の調子はどうですか？

Z1 大変お忙しい時期だとお伺いしております。今は如何にお過ごしでしょうか？

シグレ 今は新作商品のプレゼン中だ！ あ、休日の話？ 今ハマってるのはランニング！ 汗を流すのはいいぞ！

アヤメ 暑苦しい。

Z1 とても楽しそうだと思います。

シグレ マジで！？ じゃあ今度、一緒に走ろうよ！

アヤメ 無理。

Z1 それは大変嬉しいお誘いです。是非。

シライ はい、終了。少し個性的すぎると思うが…それに齟齬を生んでいた。

アヤメ 私にはこれくらいが丁度いいんです。

ガサ はい、もう帰るわよ。

Z1 また、皆さんにお会いできるのを楽しみにしております。

キヌガサ Z1を連れていきすぐ戻ってくる

シライ はい。それじゃあ、今日のプレゼンは…どちらも不採用ということ。

2人 ええ！

シグレ どうしてですか！

シライ インパクトは十分にあった。けど、それだけだ。

ガサ 本当に二人とも残念だったわね。でも美しさは重要よ！ 私好みじゃなかったわ。それと、売れるってことが大事よ。よく考えることね。

シライ 君たちはなぜヒューマノイドを作っているのか、考えたことはあるのか？

アヤメ 作る理由ですか？

シグレ 仕事だからです！

シライ 人類は病に侵されることもあれば、孤独で寂しさに襲われることもある。人は脆くて弱いものなんだ。その人類を支えるのは完璧なヒューマノイドだけだ。それを理解しない人間がヒューマノイドを作って良いものになると思うのか？

2人 す、すみません！

シライ 机に向かい頭を使うだけでなく世間の声に耳を傾ける。…それじゃ、二人とも練り直し。

2人 わかりました…

シグレ アヤメ ハケ

ガサ 新商品も簡単に作ることができないなんて、ヒューマノイド作りも大変な仕事ですね。

シライ いや、彼らほどの知識があればそれなりに質の高いヒューマノイドを作るくらいはたやすいだろう。だが、それではだめだ。我々アイデア社、その名の通り人類の理想でなくてはならないのだから。妥協は許されない。

ガサ そうですね。シライ様が人類のために尽力されているお姿はとても素敵です。ですが、あまりご無理はなさらないでくださいね。

シライ 君の心配は嬉しいが部下にだけ無理を強いることは出来ない。目的を成し遂げるためなら私は何でもするつもりだ。人類の幸福の実現はアイデア社の役目だ。そして、自身の幸福でもある。人類を幸福にするヒューマノイドをつくること、これは私にしかできないことだと思っている。

ガサ 一つお聞きしたいのですが、シライ様にとって人類を幸せにするヒューマノイドとはどのようなものなのですか？

シライ …まだ答えは見つかっていない。幸せとは人それぞれによって違うものだからな。君の幸せと私の幸せが違うようにな。

ガサ 私の幸せは、シライ様の幸せですわ。

シライ ありがとう。とても心強い。では、キヌガサくんも業務に戻ってくれ。

シライ ハケ

ガサ 分かりましたわ。それでは、失礼いたします。

ガサ ハケ

照明変化

6 【満足】

(アンサンブルが入れ替わりヒューマノイドの良さをいう)

シグレ アヤメ 主婦2 ㊦7 入り

シグレ アイデア社街頭アンケートです！ 我が社の商品はどうですか？

主婦2 重たい荷物も運んでくれて、本当に助かってるわ。

㊦7 お役に立てて光栄です。

アヤメ ま、満足、ということでしょうか？

主婦2 大満足よ。

シグレ それは良かったです。

アヤメ あ、アンケートご協力くださりありがとうございました。

主婦2 もういいの？ この子、話し相手としては不満なのよね。だから、あなたたちが話し相手になってくれたら

アヤメ ご、ご協力くださり、ありがとうございました。

主婦2 え、ええ。：それじゃあ、お店、もう一軒回っていい？

□7 はい。大丈夫ですよ。

主婦2 □7 ハケ

照明変化

男8 □3 入り

アヤメ あ、あの、わが社の商品についてお伺いしたいのですが：

男8 ゆかり、愛しているよ。

□3 はい、ありがとうございます。

男8 ゆかりはぼくのこと、愛しているかい？

アヤメ あ、あの、

男8 邪魔しないでもらえるかな。ぼくは今ゆかりとの時間を大切にしているんだ。

シグレ それは満足しているということですか？

男8 ゆかりは僕と釣り合う素晴らしい彼女だよ。少しシャイなのか、中々彼女からは愛の言葉を言わないけどね。

アヤメ あ、ありがとうございます。では次行きましょう。

男8 さ、僕たちのうちに戻ろうか。

㊦3 はい。

㊦3 男8 ハケ

照明変化

男1 入り

シグレ あなたはヒューマノイドをお使いですか？

男1 勿論だよ！ 私は工場を経営しているのだけど、従業員の3割はヒューマノイドだよ。

アヤメ ヒューマノイドはいかがでしょうか？

男1 とつてもいいよ。今じゃあの子たち無しの方が考えられないよ！ ノーヒューマノイド、ノーライフだ！

アヤメ ご、ご愛用くださりありがとうございます。

男1 君たちにもヒューマノイドと共にする生活をお勧めするよ。

シグレ それは楽しそうな話ですね！ 是非！

男1 君は話分かる子だね！ 熱く語り合おうじゃないか！

アヤメ ご、ご協力くださりありがとうございました。（シグレを制止させる）

男1 ああ、また会おう！

男1 ハケ

照明変化

シグレ かなり聞けたよな！

アヤメ か、かなりって何人聞いてんだよ！ 人数考えろよ！

シグレ 満足していた人多かったな！ 俺たちの商品がみんなに喜んでもらって嬉しいぞ！

アヤメ もう帰って多かった要望をまとめて

シグレ よし、まだまだアンケート沢山回ろうじゃないか！

アヤメ え、ちよつと、

シグレ よーし、次はあの人だ！

アヤメ 待ってよー！

シグレ アヤメ ハケ

照明変化

7 【学習】

ハル ヒナタ アスカ 遊びながら入り

ハル アスカさん、捕まえました。

アスカ くっそ。また捕まった。

ヒナタ ハルは強いよね！

アスカ そうだな。ハルは強いな。

ヒナタ 僕もまだまだ走れるよ！

アスカ はいはい。

ヒナタ アスカも久しぶりに鬼ごっこしたから楽しかったでしょ？

アスカ え、まあな…

ヒナタ ハルは？ ハルは鬼ごっこ楽しかった？

ハル 「楽しい」…

ヒナタ もしかして「楽しい」は知らないの？

ハル はい。私にはインプットされておりません。

アスカ じゃあ、「嬉しい」は？

ハル 分かりません。私には感情というものがインプットされておりません。

ヒナタ　じゃあ、僕が教えてあげるよ。じゃあ、まず、「嬉しい」っていうことからね。僕はね、勝つと心がウキウキするんだ。やったーって心から元気になるんだよ。

アスカ　そうだな。美味しいご飯を食べたりすると、良い気分になる。心が幸せになって満足することかな。それが「嬉しい」ってことじゃないかな。

ハル　「嬉しい」(S E) 記録しました。

ヒナタ　本当?! 「嬉しい」ってこと分かってくれたの?

ハル　はい。

ヒナタ　すごい!

アスカ　なるほどな。そうやって学習していくのか。

ヒナタ　じゃあ、次は「嬉しい」ってことについてだね。

アスカ　「楽しい」か、そうだな…気持ちがるくなるってことかな。

ヒナタ　うん。僕は二人と遊んでいると、ここ(胸)があったかくなって、明るい気持ちでいっぱいになるんだ。心がわくわくするし、笑顔になるよ。それは「楽しい」ってこと!

ハル　「楽しい」(S E) 記録しました。

アスカ　博士が言っていた学習してほしいことが何となく分かったかも。

ヒナタ　ハルは鬼ごっこどうだった?

ハル　鬼ごっこ、勝てたので、嬉しかったです。また、皆さんと、遊べたので、楽しかったです。

ヒナタ　わー良かった!

アスカ　また、遊ぼうな。

ハル　はい。また遊びます。

ヒナタ　ハル。これからもっともつと沢山の気持ち、知っていこうね!

アスカ　感情を学ぶのは大変だと思うけど、頑張ろうな。

ハル　はい。

ヒナタ うん！ 僕も応援する！

アスカ お前も頑張るんだぞ。

ヒナタ 分かってるよ。じゃあ、次はかくれんぼしようよ！

アスカ まだ遊ぶのか。

ヒナタ うん！ これも学習のひとつだよ。これでハルがいろんなこと学んだら一長一短だよ！

アスカ それを言うなら一石二鳥な。はあ…これからハルにちゃんと教えられるか不安だ。

ヒナタ それ、どういうこと？

アスカ お前がバカってことだ。

ヒナタ バカっていう方がバカなんだよ。

アスカ はいはい。

ヒナタ もう、アスカってば！

アヤメ シグレ 入り

シグレ すみません。アイデア社街頭アンケートに協力してください！

アヤメ あ、アンケートの回答に、ご、ご協力ください。

アスカ 街頭アンケート？

ヒナタ 何それ？

シグレ はい！ 今、アイデア社の商品をご使用の皆様に商品の感想と、改善してほしい点についてきいているんですけど…

ヒナタ ハルはアイデア社のヒューマノイドじゃないよ。

アヤメ え、そ、そうだったんですね。そ、それは、どこで購入したものでしょうか？

アスカ 買ったんじゃない。知り合いの博士が作ったんだ。

ヒナタ そう、博士の手作りだよ。

シグレ ヘー！ それはなんかすごいな！ なんかすごい！

アヤメ 相変わらず語彙力ないな…。え、えっと、どなたが作ったのですか？

アスカ モチヅキっていう博士なんだけど。

シグレ モチヅキ、か。聞いたことが無いなあ。

アスカ そういうことだから、街頭アンケートには答えられない。

ヒナタ ごめんね。

アヤメ あ、あの、こちらこそ失礼しました。

ヒナタ ううん、全然いいよ。

アスカ うん、それじゃ私たちは帰るぞ。

ヒナタ えー、遊ぼうよ。

アスカ お前、まだ診察受けてないだろ。

シグレ ほら少年、ちゃんと姉ちゃんの話聞かなきゃダメだぞ。俺みたいになかつこいい大人になれないぞ。

アヤメ お前が一番悪い例だよ。

ヒナタ うん、わかった。

アスカ じゃ、私たち帰るよ。

シグレ うん。気を付けてねー！

アヤメ あ、ありがとうございました。

ハル ヒナタ アスカ ハケ

シグレ いやあ、俺たちすげーもん見たよな。

アヤメ そ、そうだな。

シグレ ヒューマノイドを手作りできるなんてすげーよな。餅つき？ だっけ？ 会ってみたいな！

アヤメ (台詞に挟み込む感じ) あ、あの、街頭アンケート…。

シグレ いやーヒューマノイドってふかいなあ。

アヤメ 再開しましょうよ…。

シグレ 勉強になった！

アヤメ は、話を聞いてよ。

シグレ よし、今度はヒューマノイド工場へ行こう！

アヤメ もう、この人と仕事したくない。

シグレ アヤメ ハケ
クロス

8 【友達のはなし】

ハル モチヅキ ヒナタ アスカ 入り

アスカ 博士、戻ったよ。

ヒナタ ただいまー！

博士 二人ともおかえり。君もよく帰ってきたね。

ハル はい。

博士 今日一日この子と一緒に過ごしてみようだったかな？

ヒナタ すごく楽しかった！ ハルは鬼ごっこ強いんだよ。

博士 そうなのか。

アスカ うん、ハルはすごいな。

博士 いろんなことがあったのか詳しくきいてもいいかな？

アスカ うん。ハルは「嬉しい」と「楽しい」を学習したんだ。

博士 本当かい。それは良い報告だよ。ねえ、二人と遊んで楽しかったかい？

ハル はい。楽しかったです。

博士 そうか、それは良かった。

ヒナタ ねえ、博士。明日もハルと遊んでいい？

博士 勿論だよ。

ヒナタ やったー！ ハル、明日も一緒に遊べるよ！

ハル はい、嬉しいです。

アスカ 明日も遊ぶのか。ヒナタは良く飽きないな。

博士 二人ともこの子の面倒を見てくれて本当にありがとう。

アスカ いいよ。博士にはいつもお世話になっているし。

ヒナタ それにハルとはもう友達だしね。

ハル 「友達」…

ヒナタ うん、友達！

ハル 友達とは、互いに心を許し合い、対等に交わっている人のこと。私はヒューマノイドでヒナタさんは人です。

ヒナタ どういうこと？

アスカ 人間とヒューマノイドは友達になれないってこと言いたいんだろ。

ヒナタ え！ そんなことないよ。ハルは友達だよ。

アスカ ねえハル。私たち今日二人でずっと一緒にいただろ。一緒に遊んだり話したりするのが友達なんだ。それだけじゃなくて嬉しいとか楽しいとかいろんな感情を分かち合うのも友達。人間もヒューマノイドも関係ないんだ。

ハル …「友達」(SE) 記録しました。

ヒナタ ハル、「友達」のこと分かった？

ハル はい。

博士 ヒナタ君、もう一度聞いてごらん。

ヒナタ ねえハル。僕たち友達だよね？

ハル はい。ヒナタさんは友達です。

ヒナタ ハル！ ありがとう！

ハル はい。そしてアスカさんも友達です。

アスカ あ、うん。

ヒナタ 良かったね、アスカ。

博士 友達が出来て良かったね。(ハルあて)

ヒナタ そういえば、博士って友達いるの？

博士 え、僕？

アスカ うん。博士の話、あんまり聞いたことないから、聞いてみたいかも。

博士 友達か…もう随分会ってないな。今はどうしてるのか分からないよ。

アスカ そっか。

ヒナタ 博士の友達ってどんな人なの？ 博士みたいに博士なの？

博士 うん。昔は友人と一緒にヒューマノイド作りに没頭したものだよ。すこし変わってたやつもいたけど、みんな一生懸命で楽しかったな。

アスカ へえ、今その友達と会ったりしないのか？

博士 うん、全然会ってないね。

ヒナタ 会えないの？

博士 もう連絡取れないし、それに…

アスカ それに？

博士 いやなんでもない。こんな話聞いていてもつまらないだろう。

ヒナタ えー、博士の話気になるなあー。

博士 あ、そういえば、ヒナタ君アスカ君、君たちの体調はどうだい？

ヒナタ 僕？ 僕は元気だよ。

アスカ 私も大丈夫。

博士 それは良かった。でも、しっかり休みながら遊ぶんだよ。

ヒナタ はい。

博士 それじゃ、ヒナタ君は診察受けてね。

ヒナタ うん。

ハル 博士 ヒナタ アスカ ハケ

クロス

9 【市場調査報告】@アイデア社 社長室

シライ キヌガサ 入り

ガサ シライ様、最近ご無理はしておりませんか？ たまにはお休みになってくださいね。

シライ ああ、大丈夫だ。ありがとう。

ガサ 販売件数も増加しており、順調です。あまり不安にならないでください。

シライ 反応が良いのは良いことだが、それだけでは…

シグレ アヤメ 入り

シグレ 失礼します！

アヤメ し、失礼します…

シライ 以前話した市場調査の件は終わったのか？

シグレ はい！

ガサ それでは、市場調査の結果について報告をお願いします。

シグレ はい！ じゃあ、まずは私からです。まず、昨年の10月に発売された「家事代行ヒューマノイド」を使用した22歳主婦にお聞きしたところ、めっちゃいい！ ってことでした。また、今年の3月に発売された「復刻！ 事務作業ヒューマノイド DX」を使用している28歳サラリーマンは、超すげーでもたけー、って言ってました！

アヤメ 内容が無いにもほどがある…ぜ、全体を通して、家庭用ヒューマノイドの需要は安定している一方、企業用ヒューマノイドは価格の変動のせいか先月程の高評価をしている印象はあ、ありませんでした。

シライ そうか、ご苦労。それで、新商品の具体的な案の提示をしてほしい。

シグレ はい！ 考えてきました！ 考えてきたのは、トレーニングサポートヒューマノイド、その名も「スーパー筋力アップさん」です！

アヤメ ハードすぎるだろ…

シライ アヤメ君は？

アヤメ あ、は、はい。調査の中でヒューマノイドの会話機能に不満を持っている方いらっしゃいました。そこで、私が考えて来ましたのは、ぜ、前回ご紹介した会話変換型ヒューマノイドを方言対応型に改善し、親しみやすさを追加しました。さらに初期価格を3割ほど値下げしました。

シライ はあ…分かった。ありがとう。

ガサ シライ様、いかがですか？

シライ そうだな。シグレ君。

シグレ はい！

シライ 君たちの調査の結果から、業務用ヒューマノイドに改善点があるのは分かるな？ しかし、君の案は家庭用ヒューマノイドでありながら、かなりの高価格、さらにターゲットも絞られている。利用者のニーズに答えなくてはならないんじゃないのか。

シグレ …はい。

シライ アヤメ君。

アヤメ は、はい。

シライ 君は改良という手段を使い、利用者のニーズに答えようとしたことは褒めよう。だが、慎重になりすぎて既存の商品に付加価値を付けるだけでとまっついて、新商品の面白さに欠ける。なんのための改良だったのか、改良をしてどんなメリットがあるのか、そしてそれをするべきかどうかもとよく考えたまえ。

アヤメ ……はい。

シライ 私は以前君たちに伝えたはずだ。我々は人類の幸福のためにヒューマノイドを作るべきだと。

君たちの案からはそれが微塵も感じられない。利用者の声はただの感想でしかないのか？

二人 すみません！

ガサ ……何か手掛かりになるような意見はなかったのですか？

アヤメ あ！ そういえば、意見とかではないのですが、街で自社の商品じゃないヒューマノイド見つけました。

シグレ そうだったか？

アヤメ な、なんで忘れてるんだよ。え、えっと、確か私用で作ったらしいですけど…

シライ 私用のヒューマノイド？

ガサ ……一般人が一からヒューマノイドを作ったということですか？

アヤメ お、恐らくですが…

シグレ ……思い出した！ 鏡もち博士と言う名前です！

アヤメ モチヅキだよ。

シライ ……聞いたことが無い名前だ。ヒューマノイドの製作にはそれなりに知識が必要だ。素人が作るにはかなり不可能に近いのだが…

ガサ ……良ければ、私とその「モチヅキ」さんについて調査しましょうか？

シライ ……ああ。それでは、キヌガサ君。よろしく。

ガサ ……はい！ シライ様のお役に立てるよう、頑張りますわ！

シライ ……シグレ君、アヤメ君、引き続き新商品の開発をしてくれ。

二人 はい。

シグレ アヤメ ハケ

シライ 私は研究室に出向いてくる。それではキヌガサ君、期待している。

シライ ハケ

ガサ はい。シライ様の為なら、必ず。

キヌガサ ハケ

クロス

10【暴漢と紳士】

ハル ヒナタ アスカ 入り

ヒナタ アスカ、ハル、次はだるまさんがころんだ！

アスカ おい、もう帰るぞ。

ヒナタ だって今まで3人で遊べなかったから、すごく楽しいんだ。

アスカ つたく。ハルも付き合わせてごめんな。

ハル 私は問題ありません。

アスカ 私たち親が居なくてずっと二人で生きてきたから、ヒナタはしゃいじゃってるんだ。

ヒナタ ほら、アスカ、ハル早く。

アスカ 分かった分かった。だから、少し付き合っただけでほしいんだ。

ハル はい。私は友達なので、一緒に遊びます。

アスカ ありがとうな。

ヒナタ おーい。

アスカ わかった。じゃあ、鬼はヒナタからな。

ヒナタ うん！ じゃあいくよ。

暴漢1 入り

アスカ うん。

ハル はい。

男1 おいおい、ヒューマノイド大先生じゃないか。

ヒナタ ねえアスカ。

アスカ ヒナタ、私たちは関わらないようにしよう。

ヒナタ ハル、行こ。

男1 おい、待てよ。待てつつってんだろ。

ヒナタ な、なに？

男1 おい、そのヒューマノイドはなんだ？ パパとママに買ってもらったのか？

アスカ 何言ってるんだ。おい、ヒナタ、気にするな。行くぞ。

男1 チツ…気に食わねえな。おい、そのヒューマノイド！（ハルに近づく）

アスカ おい。ハルに近づくな。

男1 ハハハ。ヒューマノイドが人間のガキに守られてんのか？ 愉快だなあ！

アスカ 黙れ。近づくな。

男1 ガキは引っ込んでろ！（庇っていたヒナタアスカを押しつける）

ヒナタ お願いやめてよ。なんでこんなことするの。

男1 おいおい、被害者はコイツだって言いてえのかよ。加害者はこいつらヒューマノイドだろ。

ヒナタ ヒューマノイドは悪者じゃないよ。

男1 ヒューマノイドが悪くないわけねえだろ。ガキは黙ってる！ おい、機械野郎、お前らのせいで俺たち人間は生きていけねえんだよ。

ハル それはどういうことでしょうか？

男1 とぼけるな。お前ら機械に仕事を奪われた人間がたくさんいることを知らねえとは言わせねえぞ。

アスカ それは言いがかりだ。

男1 言いがかりだと？ じゃあ俺と工場で働いていた奴らは全員理由もなしに首切られたっていつのか。

アスカ それは…でも、ハルは関係ない！

キリ 入り

男1 関係ねえわけねえだろ。だから俺はヒューマノイドをすべて壊さないと気が済まねえんだよ。
(殴りかかる)

アスカ ハル！

キリ 暴漢を制す

男1 は？ 何だよお前。どっからわいてきた！？

キリ 失礼致しました。なにやら賑やかでしたのでつい。

男1 ふざけたマネしやがって！ 離せ！

ツバキ 入り

ツバキ キリ！ 探したよ。もう、こんなところ居たんだね。

男1 てめえ、なんだよ！

ツバキ キリ、君に友達が出来たのかい？

キリ ええ、とても仲良くなりました。

男1 離せ！ おい、こら！（繰り返し返す）

ツバキ いやあ、君はキリの良さが分かるんだね。見る目があるよ。向こうで話し合おうじゃないか！

男1 は？ ふざけんな！

キリ 遠慮しないでください。

ツバキ 私も嬉しいよ。さー行こうじゃないか！

ツバキ キリ 暴漢1 ハケ

アスカ あいつら、なんだったんだ：

ヒナタ アスカ、怖かったよ。

アスカ ヒナタ、怪我はなかったか？

ヒナタ うん、僕は大丈夫だよ。でも、ハルがかわいそうだよ。

ハル 「かわいそう」：

アスカ ハルは悪くないのにな：なんか、すげえ腹立つ。ヒューマノイド自体が人間の仕事を奪いたくて奪ったんじゃない。無関係の私たちをあいつらの不満に巻き込むな。

ヒナタ うん。そうだね。ハルは僕やアスカを幸せにするんだ。だからハルはいい子なんだ。分かってくれないのは悲しいよ。心が辛いよ。

アスカ ああ。そうだな。あまりにも自分勝手だ。

ハル ヒナタさん、アスカさん、それは嬉しいや楽しいと違うのですか？

アスカ ハル、これはな、「悲しい」と「怒り」だ。

ハル 「悲しい」「怒り」：

ヒナタ 「悲しい」は心が痛くて辛くなることだよ。酷いことを言われると、体は傷つかないけど、心に傷がつくんだよ。

アスカ 「怒り」は、嫌なことをされると心が熱くなるんだ。腹が立ってというか、頭に血が上る。これも心が辛くなる。

ハル 「悲しい」「怒り」(SE) 記録しました。

アスカ うん、普段の生活で私たちは楽しいことも嬉しいこともたくさんあるけど、それ以上に悲しいことも怒ることもあるんだ。

ハル はい。

ヒナタ うん、そうだね。でも、ずっと辛いわけじゃないんだ。

アスカ ああ。辛いこともあるけど、その分良いことがあるから私たちは生きていけるんだ。

ハル はい。分かりました。

アスカ じゃあ、もう今日は帰ろう。

二【再開】

モチヅキ 入り

博士 みんな、こんなところに居たんだね。

ヒナタ 博士だ！

博士 みんな遅いから心配したよ。遊びすぎちゃったのかい？

アスカ いや、違うんだ。さつき変な男に絡まれたんだ。

博士 そうだったのか。大丈夫だったかい？

ヒナタ うん大丈夫だったよ。僕たちを助けてくれた人がいたからね。

博士 そうだったんだ…それは良かったね。

ヒナタ でも、ありがとうって言う前にどっか行っちゃったんだ。

アスカ ああ。名前も聞いてないんだ。

博士 親切な人もいたんだね。

ツバキ キリ 入り

ツバキ あ！ いた！ 君たち大丈夫だったかい？

ヒナタ あ、さっきの人だ！

アスカ さつきはありがとう。

キリ いえ、危ないところでしたね。

博士 君は…いえ、危ないところを助けて頂いてありがとうございました。

ツバキ いやあ、それほどでもないよ。

ヒナタ 二人の名前はなんていうの？

ツバキ 私の名前はツバキだ。

キリ 私はキリと申します。

アスカ お前は大丈夫だったのか？

キリ ええ。大丈夫ですよ。

ツバキ ああ、キリは大丈夫だよ。そんなにヤワに作ってないからね。

二人 作った？

キリ 私はヒューマノイドです。

ヒナタ ハルと一緒に来た！

ツバキ だからあいつに絡まれていたんだね。でも、そのヒューマノイドは珍しいね。どこの商品だい

ヒナタ ハルは博士が作ったんだよ！

ツバキ へー、そうだったのか！ いやーハル君は非常に興味深いね。是非とも中を見て見たいよ。

キリ やめる変態。アンタが言うのとシヤレにならないんですよ。

ツバキ 私はただ純粋にヒューマノイドを研究しただけなんだよ！

ヒナタ じゃあ、博士と友達になればいいじゃん。

博士 友達…

ヒナタ ツバキもヒューマノイドが好きだから、博士と話ができると思ったんだけど、どうかな？

ツバキ いいよ、友達になろう！ 君とヒューマノイドの話をしたいよ。

博士 あ、はい。よろしくお願いします。

ヒナタ 良かった！ きっと上手くいくと思ったんだ！

アスカ そうだな。

ヒナタ いいなあ！ 僕もキリと友達になりたい。ねえ、キリ、友達になろうよ。

キリ はい。よろしくお願いします。

ツバキ キリ、良かったね。私は自分のことのように嬉しいよ。

キリ 黙っていただけですか、変態。

ヒナタ 僕、キリと遊びたい！ キリ、遊ぼうよ！

キリ はい、もちろん。

アスカ はあ…結局遊ぶんだな。ハルも行こう。

ハル はい。

ハル ヒナタ アスカ キリ ハケ

ツバキ 若い子たちはいいねえ。

博士 君もまだ若いよ。

ツバキ くん？ 君と私は同世代ぐらいじゃないのか。何を年寄りがっているんだ。

博士 あ、いや…そういや、あなたはツバキさんでしたっけ。

ツバキ ツバキでいいよ。

博士 はい、ツバキ。キリ君はあなたの作品なんですか？

ツバキ ああ。キリは私の持ちうる力で創り上げた最高傑作だ。ま、少々口は悪くなっちゃったけど。

博士 素晴らしい技術をお持ちですね。

ツバキ そうだろう。ああ、キリをいくら欲しがってもあげないよ。

博士 いや、欲しがりはしないけど。

ツバキ そういや、君もハルくんを作ったんじゃないか！ あれこそ学習タイプの素晴らしいヒューマノイドじ

やないか！

博士 いや、キリ君に比べたら 全然大したもんじゃありませんよ。

ツバキ 何を言っているんだ！ 素人には分からないかもしれないが、あれはすごい作品だよ。細かいところまで作りこまれているし、学習の身に着け方が人間ととても近い。

博士 そんなことはないですよ。

ツバキ ハル君の設計図を見たいのだけど、見せてくれないか？

博士 いえ、あれは人にみせるようなものじゃないですよ。

ツバキ そんなこと言わずに！

博士 ですから、

ツバキ 見てみたいんだ！

博士 他のものなら、

ツバキ ちよつとだけでも

博士 …それじゃあ、研究所に来てください。

ツバキ やったー！ ありがとう！

博士 ツバキ ハケ

クロス

12 【感情のある】@アイデア社 廊下

シライ シグレ アヤメ 入り

(デザインを見せながら廊下を歩いている)

シグレ こちらが新デザイン1で、次のデザイン2がこれで、

アヤメ もっとゆつくり見せろよ！

シライ 1枚目は良かった。そのデザインは新しいし清潔感ある。

シグレ ありがとうございます！

アヤメ つ、次にこちらを見て頂きたいのですが、こちらは今流行な色を取り入れたのですが、

シライ ああ、そちらもそれでいい。

アヤメ あ、ありがとうございます。

キヌガサ 入り

ガサ シライ様。

シライ キヌガサ君か、どうした。

ガサ 先日、シグレさんとアヤメさんが見たと思われる自社製品ではないヒューマノイドを街で確認したのですが。

シグレ え！

アヤメ ほ、本当ですか？

シライ 続けてくれ。

ガサ はい。そのヒューマノイドは男性に絡まれておりましたが、そこにツバキと名乗る男が割って入りました。

シライ ツバキだと？

ガサ ええ。シライ様もご存じの通り、元イデア社研究員のツバキさんです。

シグレ え！

アヤメ だ、代表とツバキさんってお知り合いとかですか？

シライ ああ、一応知ってはいるな…

ガサ 続けますね。そのヒューマノイド、そしてそのツバキさんと同行していたヒューマノイドなのですが、感情を持っておりました。

シライ なに？

ガサ 正確にはツバキさんのヒューマノイドが感情を持っており、モチヅキさんのヒューマノイドが感情を学習しておりました。

シグレ 感情があるヒューマノイドなんて、まるで人間だ。

アヤメ いや、それ以上：

シライ そのモチヅキの素性は把握できたか？

ガサ 残念ながら、イデア社の学者データベースで検索してみました該当する人間はおりませんでした。

アヤメ 膨大なデータを持ってしても見つけれないなんて：

ガサ 考えられる線は、二つ。一つ目はその「モチヅキ」という人物が全くの素人であるということ。二つ目は、その「モチヅキ」さんが偽名を使っている全くの別の人物であるということ。

シライ …可能性は十分にあるな。

ガサ 一応、可能性の高い人物をリストアップしております。

シライ ご苦労。モチヅキに関して引き続き調査を続ける。

そして、その「感情を持つヒューマノイド」について早急に情報を集める。

ガサ はい、了解しました。

アヤメ あ、あの、新商品の新しいデザインについて決定の方をしていただき

シライ 保留だ。

二人 え？

シグレ どういうことですか？

シライ じきにわかる。君たちはキヌガサ君の報告を待っていてくれ。それまで他の業務にあたってくれ。

アヤメ は、はい…？

シグレ わかりました！

シグレ アヤメ ハケ

ガサ あの、もう一件お伝えしないといけないことがあります。

シライ 何だ？

ガサ モチヅキさんのヒューマノイドたちに絡んでいた男性ですが、ヒューマノイドに対する反感を持っていました。

シライ 失業者か…

ガサ ええ。失業率が高くなり平均寿命の低下し続けていることで、不安や不満が増加しています。そのためヒューマノイドにあたる人も少なくはありません。

シライ ああ。アイデア社は早急に問題解決に当たらなければならない。ヒューマノイドで少しでも人々の不安や不満を解消できるように努めよう。

ガサ 少し話が逸れるのですが、以前お聞きした人類を幸福にするヒューマノイドは見つかりそうですか？

シライ ああ、君の「感情のあるヒューマノイド」の報告はとても役立った。

ガサ お役に立てて光栄ですわ。

シライ キヌガサ君、頼りにしている。

ガサ はい！ それでは私は任務に戻ります。

シライ ああ、頼んだ。

シライ キヌガサ ハケ

クロス

13 【同期する】

ハル ヒナタ アスカ キリ 入り

ヒナタ え！ じゃあ、キリは食べることもできるの？

キリ ええ、吸収はされませんが、味わうことはできます。

アスカ 好きなものとかあるのか？

キリ はい。私は林檎を美味しいと感じます。

ヒナタ すごい！ じゃあ、ハルも食べられるかな？

ハル 分かりません。私は食事をしたことはありません。

アスカ いつもどうしているんだ？ 博士と一緒にご飯を食べないのか？

ハル いいえ。

ヒナタ そうなんだ。

キリ それなら今度皆さんと一緒にお食事をしましょう。大勢で食べれば楽しいですし、より仲良くなれますよ。

アスカ いい考えだな。

ヒナタ ハル、楽しみだね。

ハル はい、楽しみです。

捜査員23 入り

女3 すみません。少しお話いいでしょうか？

キリ はい。

女2 本日、この周辺で盗難事件が発生し、犯人が逃走しました。その犯人は複数のヒューマノイドに接触していた可能性があります。

女3 是非、そちらの心体もご協力願いたい。

ヒナタ 協力って、何するの？

女2 はい、こちらのパネルに手を置いてください。そうすれば、この前心時間のヒューマノイド記憶が同期されます。

アスカ 置くだけでいいのか？

女2 はい、それだけでいいです。

ヒナタ すごい！

女3 はい、捜査にご協力お願いします。

キリ では…

ハル キリ 手を置く

SE

女3 はい、それで大丈夫です。

女2 ご協力くださりありがとうございます。

アスカ まだ、逃走中ってことか。

キリ あまり、こちら辺に長居するのも良くないかもしれませんね。

アスカ ヒナタ、帰るぞ。

ヒナタ うん。捜査、頑張ってるー。

女3 はい。ありがとうございました。

ハル ヒナタ アスカ キリ ハケ

女2 意外とチョロかったな。

女3 そうっすね。

キヌガサ 入り

女3 あ、キヌガサさん。

女2 キヌガサさん、お疲れー。

ガサ 二人ともご苦労様。で、どうだったの？

女3 もちろん、完璧にきまつてんじゃん。

女2 ほらよ、データはこんなかあるぜ。

ガサ はい、どうも。それじゃあこれが謝礼金よ。

女2 まいどどうも。

女3 お、やったー！ 前回より多いんじゃないか。

ガサ やはりあなたたちが一番頼りになるわ。

女2 そんなじゃ、またよんでくだせえよ。

ガサ ええ、次回も期待してるわ。

女3 お仕事まってまーす。

女2 行くぞ。

捜査員23 ハケ

ガサ これで、任務完了ですわ。

照明変化

14【演出 完璧な新商品】

シライ 入り

ガサ こちらの資料ですわ。(タブレット渡す)

シライ ああ、ありがとう。(目を通す、資料を読むマイム) ご苦労。よくやった。(タブレット返す)

35

ガサ はい、それでは、失礼致します。

キヌガサ ハケ

シライ 感情を持つヒューマノイドは人類と変わらない。人類と近い存在になる。このヒューマノイドこそ人類を助け、幸福にできる。

さあ、これがアイデア社の新商品だ。

照明変化

シライ 皆さま、本日我々は新商品を発表いたします。今回の新商品は、全くの新しいタイプとなっております。このヒューマノイドは人類と同じように笑い、怒り、悲しみ、楽しむことが出来ます。人類と同じように皆様とご一緒に生活することが出来ます。それでは、実際に見て頂きましょう。

15 男5 入り(見て頂きましょう、で入り)

シライ こちらは、30代前半の男性モデルです。

16 始めまして。僕はウメと言います。うどんを食べるのが好きですね。スポーツが好きでサッカーやテニ

ス、なんでもします。

男5 良くできているなあ。

シライ 仕事をすることも可能ですよ。

男5 へー！ 優秀だな。

□7 はい、なんでも仰ってください。

男5 なんか仕事仲間が増えたみたいで嬉しいな。

シライ どうですか？

男5 ああ、すごく良いよ。一緒に働きたいね。

□7 これからよろしくお願いします。

男5 ああ、こちらこそよろしく。

□7 男5 ハケ（「じゃあ早速仕事の話しよう」など言いながらハケ）

□1 民衆48入り（男5のよろしく聞こえたら入り）

シライ こちらは、20代前半の男性モデルです。

□1 おはようございます。私の名前はサクラです。好きなものはお寿司で、趣味はショッピング。特技は掃除や片付けです。

男8 すごいな！

男4 人間みたいだね。

シライ どうですか？

男4 はい、とても良いですね。

男8 気に入ったよ。

□1 嬉しいな。

男8 サクラ、友達になろうよ。俺たちいい友人になれると思う。

☐1 いいのか？

男4 もちろん、いいに決まってるよ！

☐1 うん、これからよろしくね。

二人 よろしく。

☐1 男4 8 ハケ

☐3 女2 入り

シライ 次は、10代後半の女性モデルです。

☐3 こんにちは。あたしの名前はスマレ。好きな食べ物はオムライス。ハマってるのは映画で、恋愛モノやホラー系をよくみるんだ。

女2 すごい！ 本当の人間のようね！

シライ 気に入りましたか？

女2 うん！ ねえ映画好きなの？

☐3 うん。あなたも好きなの？

女2 ええ！ 私たち気が合うわね！ ねえ、あなたから映画の話を知りたいわ。

☐3 いいよ。お話ししましょうよ。

女2 いいわね。話が出る友達が欲しかったの。

☐3 これからよろしくね。

☐3 女2 ハケ

シライ 皆様、どうでしょうか。素晴らしいと思いませんか？ この新商品は、感情を持つヒューマノイドです。人間とほぼ同じと言っても過言ではないでしょう。そしてそれらは疲れることはありません。また、病に冒されることもありません。皆様のお役に立つこと間違いありません。このヒューマノイドは皆様の幸せを保障致します。

シライ ハケ

15 【知りたい】

ハル モチヅキ 入り

博士 君の最近の学習の具合を聞きたい。どんな感じかな？

ハル はい。昨日はヒナタさんとアスカさんと街を散策しました。たくさんの人やヒューマノイドや建物がありました。「驚き」を学習しました。

博士 そうだね。今ではヒューマノイドを見かけない日はないよね。

ハル はい。たくさんお見掛けしました。街でお見掛けした55%はヒューマノイドでした。

博士 そうか：街ではどんなことをしたの？

ハル 屋台に行きました。最近の流行のお菓子をいただきました。「甘い」「苦い」を学習しました。

博士 君はどの味が好みだったんだい？

ハル 私は甘い味のものを好んでいます。

博士 うん、甘いのは美味しいよね。苦いのはどうだったの？

ハル 私は好みではありませんでした。

博士 僕も実は好きじゃないんだ。

ハル モチヅキ博士と私は同じですね。

博士 そうだね。同じだ。

ハル モチヅキ博士と同じは嬉しいです。

博士 僕も嬉しいよ。君の学習は順調みたいで、良かったよ。

ツバキ キリ 入り

ツバキ モチヅキー、来たよー！

キリ ツバキ、ちゃんと挨拶をしなさい。お二人ともおはようございます。

博士 おはよう。

ハル おはようございます。

ツバキ おはよう！

キリ 毎日のようにお訪ねしてしまい申し訳ございません。

博士 いいよ。僕も来てくれて嬉しいよ。

ツバキ モチヅキはいい奴だね。

キリ はあ。ツバキもハルさんやモチヅキ博士を見習ってほしいです。

ツバキ なんでそういうことを言うのかな？

キリ ご自覚がないとは驚きです。大変幸せな頭をお持ちなのでしょうね。

ツバキ キリ わちやわちや

博士 二人とも仲がいいよね。

ハル ヒナタさんとアスカさんの「友達」とは違います。

博士 そうだね。親しいって感じかな。

ハル 「親しい」…

博士 気が置けない人というか…一緒にいて落ち着く関係って親しいって言うんだろうね。

ハル 「親しい」(SE) 記録しました。

キリ ハルさん、今日は天気が良いので出かけませんか？

ハル はい。

キリ どこか行きたい場所がありますか？

ハル 行きたい…

ツバキ もしかして、ハル君には「したい」という欲求が分からないんじゃないかな。

ハル したい…

ツバキ 欲求っていうのは、何かを欲しいと思う気持ちだ。心を満たす目的のために何かをしようと思う心の動きだ。君が疑問に思ったり、何か行動を起こすときには恐らく欲求があるんだよ。

ハル 「したい」(SE) 記録しました。

ツバキ さすがハル君だ。(モチヅキに話しかけに行く)

キリ ハルさん、何かしたいことはありますか？

ハル はい。…キリさんみたいになりたいです。

キリ 私ですか？

ハル はい。キリさんは知識をたくさんお持ちです。キリさんのように他の人と同じように過ごせるようになりたいです。

キリ それでは、沢山学習をしましょう。学習をして沢山のことを知りましょう。

ハル はい。もつと多くのことを知りたいです。

博士 うん、それじゃあ、二人で出かけておいで。そっちの方が多くのことを学べるよ。

ハル モチヅキ博士。

博士 なんだい？

ハル モチヅキ博士とも一緒に行きたいです。

博士 それは、どうして？

ハル モチヅキ博士と仲良くなれると思ったからです。モチヅキ博士と親しくなりたいからです。

博士 うん。一緒に行こうか。

ツバキ 私も同行するよ！

キリ それでは、ツバキと私は先に行きますので。

ツバキ え？ どうしてだい？

キリ　今は黙ってついてきてください。

ツバキ　え、どういうことだい？

キリ　黙れ。

ツバキ　キリ　ハケ

博士　あ、先に行っちゃったね。

ハル　モチヅキ博士。同行してくださりありがとうございます。

博士　いや、誰かと出かけるなんて久しぶりだから、今から楽しくなってきたよ。

ハル　はい。私も楽しいです。

博士　うん、行こうか。

ハル　モチヅキ　ハケ

クロス

16 【街中のヒューマノイド急増】

ヒナタ　アスカ　入り

ヒナタ　昨日は久しぶりに街に出て遊んで楽しかったね。

アスカ　まあな。ハルも知らないこと学べたみたいだし。

ヒナタ　うん！　昨日食べたお菓子、おいしかったなあ。

アスカ　なんかすごく甘かったけど。

ヒナタ　また食べたいなあ。

アスカ　お金貯まったらな。そしたらまた3人で買いに行こう。

ヒナタ　うん！　僕もそれまで頑張るよ！

アスカ　まあ…最近仕事ないけどな。

ヒナタ どうして？ 前まで沢山あったでしょ？

アスカ いや、最近な…

□1 入り

□1 おい、君たち。君たちは何をしているんだい？

ヒナタ お兄さん、誰？

□1 僕は配達員さ。最近この辺りに配属されたんだけど、この辺りは治安が良くないと聞いたよ。

アスカ そうだな。でも私たちはこの辺りで暮らしているから。

□1 暮らしている…お父さんとお母さんは？

アスカ 私たちはいないんだ。ヒナタと二人で暮らしてる。

□1 そうか、悪いことを聞いてしまったね。

ヒナタ そんな、暗い顔しないでよ！ 僕友達たくさんいるから楽しいよ！

□1 うん。でも気を付けてね。やっぱり危険なこともたくさんあるから。僕、また君たちに会いに行くよ。

ヒナタ うん。お兄さんまた来てね。

アスカ 仕事頑張ってる。

□1 ありがとう。じゃあね。

ヒナタ ばいばい。

□1 ハケ

ヒナタ さっきの人また来てくれるかな。

アスカ 多分な…

ヒナタ 優しい人だったね！

アスカ …さっきの人な、ヒューマノイドだよ。

ヒナタ え、そうなの！？ でも人間にしか見えなかったよ。

アスカ いや、あれはアイデア社が最近出してる新商品だ。

ヒナタ すごく人間みたいだよ。

アスカ そう、だからヒューマノイドが働くせいで人間の仕事が減ったんだ。

ヒナタ じゃあ、人間はどうなるの？

アスカ さあな。

ヒナタ そっか…

アスカ 私たちは博士に面倒してもらっているから何とかなっているけどな。

ヒナタ 僕たちは博士に感謝だね！

アスカ そうだな。

ヒナタ それじゃあ、今日も寝るとこ探しする？

アスカ うん。こればかりは博士に頼りつきりになる訳にもいかないしな。

ヒナタ 暗くならないうちに、昨日行つたとこ見に行こうよ。

アスカ そうしようか。

ヒナタ アスカ。

アスカ なんだ？

ヒナタ アスカには僕が付いてるからね。

アスカ 急にどうした。

ヒナタ 何となく言ってみただけ！

アスカ そうか。私にはバカで明るいヒナタがいるから頼もしいな。

ヒナタ 僕はバカじゃないよ。

アスカ はいはい。行こう行こう。

ヒナタ アスカってばー。

照明変化

17【反ヒューマノイド世論】

男5 男7 入り

男5 おい、お前、俺の仕事奪ったな。

男7 いえ、奪っておりませんが…

男5 お前が今やってる仕事は俺がやるはずだった仕事なんだよ。

男7 そんな、そんなこと言われましても、

男5 この、泥棒！ 二度と帰ってくるな。

男7 ハケ

照明変化

女2 男3 入り

女2 ちょっとアンタ！ 私の彼氏を返して！

男3 なんでそんなことを言うの？

女2 ヒューマノイドのくせに、人間の恋人奪うなんて！ 最低！

男3 うちはまだ、話を聞いてあげただけなのに…

女2 うるさい！ あんたなんていなきやよかったのに。

男3 ハケ

照明変化

男1 男4 8 入り

男8 お前は死なないんだよな…

□1 はい。僕は死にません。

男8 俺はもう…

男4 大丈夫だよ。きみはまだ元気だよ。

男8 もう死ぬんだよ！ けどな、(□1につかみかかる) お前は生き続ける、俺らが病気で苦しんでも年取って体力無くなってもな。

□1 痛いです。やめてください。

男4 やめなつて！（男8と□1を引き離す）

男8 もう、どっか行けよ。

□1 え、待って、

男4 …うんごめん。僕も君の顔みたくない。

□1 ハケ

男5 ヒューマノイドは完璧。

女2 人間は不完全。

男8 人を蔑み

男4 あざ笑う

男5 ヒューマノイドはいらない。

全員 ヒューマノイドはいらない。

男4 人間の居場所を返せ。

全員 人間の居場所を返せ。

男8 ヒューマノイド、反対。

女2 ヒューマノイド、反対。

全員 ヒューマノイド、反対。(くり返し)

民衆2458 ハケ

照明変化

18【モチヅキⅡ】

シライ 入り

シライ 何故だ…何故こうなった…完璧なヒューマノイドを何故人は受け付けない…完璧なヒューマノイドこそ人の幸せを叶えるはずじゃないのか…

キヌガサ 入り

ガサ すみません、シライ様！

シライ キヌガサ君か…どうした。

ガサ お忙しいところ失礼致します。こちらをご覧ください！

シライ これは？

ガサ 一度目をお通しになってください。

シライ …これは何の設計図だ。

ガサ モチヅキさんです。

シライ どういうことだ。モチヅキは人間ではなかったのか。

ガサ すみませんが先に確認したいことがあります。私はロボット工学に明るくありませんが、その設計図は単純なヒューマノイドの設計図には見えません。

シライ 確かに人間とヒューマノイドが融合されているような構造だ。…まるで、15年前のあの実験を彷彿とさせる。

ガサ 15年前に我が社で行われた「IDEAL」計画人体実験についても調べさせていただきました。

その計画は人間とヒューマノイドを組み合わせ、人類を不老不死にするものだったんですね。

シライ だが、計画の実験は失敗し、計画自体中止となった。…責任者であったシヨゲツさんしかその全貌を知らなかった。…彼は自身を被験者として命を落とした。

ガサ つかぬことをお聞きするのですが、本当にその方は亡くなったのでしょうか。

シライ 何を言っているんだ。あの人は死んだ。

ガサ その方が亡くなったとする根拠は何ですか？

シライ 実験の失敗だ。

ガサ ではその方のご遺体を確認されたのですか？

シライ …遺体だと…

ガサ 実はモチヅキさんに関するデータについてなのですが、15年前以前のものが見当たりませんでした。

シライ そんな、まさか、

ガサ モチヅキさんは15年前、あの実験にて犠牲になったと思われたシヨゲツさんで間違いありません。

シライ それじゃあ、あの実験は成功していたというのか。

ガサ そうなります。

シライ あの計画は、正しかったのか…

ガサ シライ様？

シライ …キヌガサ君、ご苦労だった。

ガサ はい、それでは失礼いたします。

キヌガサ ハケ

シライ そうか…完璧なヒューマノイドが人類を幸せにするのではない。人類が、人類自身が完璧になればいい。不完全な人類が完全になればいい。

私が「IDEAL」計画を再始動させる。

暗転

シライ ハケ